

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更								
フリガナ設置者	コウリツダイガクホウジンシズオカシャカイケンコウイガクダイガクインダイガク 公立大学法人静岡社会健康医学大学院大学								
フリガナ大学の名称	シズオカシャカイケンコウイガクダイガクインダイガク 静岡社会健康医学大学院大学 (Shizuoka Graduate University of Public Health)								
大学本部の位置	静岡県静岡市葵区北安東4丁目27番2号								
大学の目的	健康と医療、環境を統合する俯瞰的な視点を機軸とした学術の理論及び応用を教授・研究し、研究課題の科学的な分析により、健康寿命延伸に貢献する人材を養成し、もって地域社会に貢献することを目的とする。								
新設学部等の目的	社会健康医学研究科社会健康医学専攻博士後期課程では、社会健康医学の最先端研究と成果の社会実装に取り組むことで、我が国のみならず世界が抱える健康課題の解決に果敢に取り組む高度な研究者を育成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部等】
	社会健康医学研究科 [Graduate School of Public Health] 社会健康医学専攻 [School of Public Health] 博士後期課程 [Doctor's Program] 計	3年	2人	-	6人	博士(社会健康医学) [Doctor of Philosophy in Public Health]	令和5年4月 第1年次	静岡県静岡市葵区北安東4丁目27番2号	社会健康医学研究科社会健康医学専攻(修士課程) 14条特例の実施
同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)	令和5年4月の社会健康医学研究科社会健康医学専攻(博士後期課程)の設置にあわせ、修士課程を博士前期課程と改称する。								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	社会健康医学研究科 社会健康医学専攻 (博士後期課程)	講義	演習	実験・実習	計	15単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設分	社会健康医学研究科社会健康医学専攻(博士後期課程)	教授 人	准教授 人	講師 人	助教 人	計 人	助手 人	兼任 人
		計	15 (15)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	25 (25)	0 (0)	0 (0)
	既設分	社会健康医学研究科社会健康医学専攻(修士課程)	11 (11)	6 (6)	4 (4)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	16 (16)
		計	11 (11)	6 (6)	4 (4)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	-
合計		16 (16)	7 (7)	4 (4)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	-	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員	15人 (15)		3人 (3)		18人 (18)			
	技術職員	1人 (1)		0人 (0)		1人 (1)			
	図書館専門職員	1人 (1)		0人 (0)		1人 (1)			
	その他の職員	0人 (0)		0人 (0)		0人 (0)			
計		17 (17)		3 (3)		20 (20)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校舎敷地	9,872.89 m ²	0 m ²	0 m ²	9,872.89 m ²				
	運動場用地	0 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²				
	小 計	9,872.89 m ²	0 m ²	0 m ²	9,872.89 m ²				
	そ の 他	1,642.18 m ²	0 m ²	0 m ²	1,642.18 m ²				
	合 計	11,515.07 m ²	0 m ²	0 m ²	11,515.07 m ²				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		9,209 m ² (9,209 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	9,209 m ² (9,209 m ²)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	3室	6室	0室	0室 (補助職員一人)	0室 (補助職員一人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				
		社会健康医学研究科社会健康医学専攻(博士後期課程)			29室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	博士前期課程 と共用	
	社会健康医学研究科 社会健康医学専攻 (博士後期課程)	1,257 [236] (1,257 [236])	8,790 [2,428] (8,790 [2,428])	8,790 [2,428] (8,790 [2,428])	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計	1,257 [236] (1,257 [236])	8,790 [2,428] (8,790 [2,428])	8,790 [2,428] (8,790 [2,428])	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
図書館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数					
		275.48 m ²	24席	30,000冊					
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
		0 m ²	該当なし						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体 図書購入費には、電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト)を含む
	教員1人当り研究費等		985千円	985千円	985千円	—千円	—千円	—千円	
	共同研究費等		5,000千円	5,000千円	5,000千円	—千円	—千円	—千円	
	図書購入費	30,000千円	30,000千円	30,000千円	30,000千円	—千円	—千円	—千円	
	設備購入費	17,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	—千円	—千円	—千円	
	学生1人当り納付金	第1年次 県内677千円 県外903千円	第2年次 536千円	第3年次 536千円	第4年次 —千円	第5年次 —千円	第6年次 —千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			授業料、入学金、入学検定料、その他特定財源により維持運営し、不足する部分は静岡県からの運営費交付金を充当する						
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	静岡社会健康医学大学院大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
	社会健康医学研究科社会健康医学専攻(修士課程)	2年	10人	0人	20人	修士(社会健康医学) [Master of Public Health]	1.9倍	令和3年度	静岡県静岡市葵区北安東4丁目27番2号
附属施設の概要		該当なし							

教 育 課 程 等 の 概 要														
(社会健康医学研究科 社会健康医学専攻 博士後期課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	社会健康医学特講	1通	1			○			15	7	3			オムニバス方式・共同(一部)
	小計(1科目)	—	1	0	0	—			15	7	3			
特別演習科目	博士課程セミナー1	1通	1				○		15	7	3			共同
	博士課程セミナー2	2通	1				○		15	7	3			共同
	博士課程セミナー3	3通		1			○		15	7	3			共同
	小計(3科目)	—	2	1	0	—			15	7	3			
特別研究科目	社会健康医学研究	1-3通	12				○		15	7	3			
	小計(1科目)	—	12	0	0	—			15	7	3			
合計(5科目)		—	15	1	0	—			15	7	3			
学位又は称号		博士(社会健康医学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く)						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
博士後期課程に原則として3年以上在籍し、授業科目について15単位以上の単位を修得するとともに、必要な研究指導を受けた上で博士論文の最終審査に合格することとする。								1学年の学期区分			2期			
								1学期の授業期間			15週			
								1時限の授業時間			90分			

教育課程等の概要															
（社会健康医学研究科 社会健康医学専攻 修士課程）															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	社会健康医学概論	1前	2			○			6					兼2	オムニバス ※演習
	公衆衛生危機管理論	1後		2		○			1	2				兼1	オムニバス 共同（一部） ※演習
	基礎医学講座	1前		1		○			2						オムニバス
	高齢者ケア概論	1前	1			○			1	1				兼1	オムニバス
	公的統計活用法	1後		1		○				1					※演習
	文献検索法・文献評価法	1前	1			○					1				※演習
	プレゼンテーション・ライティングスキル	1前	1			○				1	1				オムニバス ※演習
	小計（7科目）	—	5	4	0	—			7	5	1	0	0	兼4	—
疫学領域	疫学概論	1前	1			○			1	1					オムニバス 共同（一部）
	疫学研究・臨床研究特論	1後		1			○		1						
	臨床研究概論	1前	1			○			1	1					オムニバス
	疫学・ゲノム疫学特論	1後		1		○			3					兼1	オムニバス
	小計（4科目）	—	2	2	0	—			4	1	0	0	0	兼1	—
医療統計学領域	医療統計学概論	1前	2			○				1	1				オムニバス 共同（一部） ※演習
	医療統計学特論	1後		2		○				1	1				オムニバス 共同（一部） ※演習
	臨床試験解析学	2前		1		○				1	1				オムニバス 共同（一部） ※演習
	観察研究解析学	2前		1		○				1	1				オムニバス 共同（一部） ※演習
	小計（4科目）	—	2	4	0	—			0	1	1	0	0	兼0	—
公衆衛生学領域	環境健康科学・産業衛生学概論	1前	2			○				1				兼1	オムニバス
	環境健康科学・産業衛生学特論	1後		1			○			1				兼1	オムニバス ※講義
	生活習慣病（生活習慣・遺伝子・環境）	1後		1		○			3	1					オムニバス
	小計（3科目）	—	2	2	0	—			3	2	0	0	0	兼2	—
	コミュニケーションヘルス領域	健康情報学	1後		1		○			1	1				兼1
ヘルスコミュニケーション概論		1前	1			○			1						
ヘルスコミュニケーション特論		2前		1		○				1					※演習
行動医科学		1前	1			○			1	1					オムニバス
健康医療社会学		1後		2		○			1						※演習
小計（5科目）		—	2	4	0	—			2	2	0	0	0	兼1	—
健康管理・政策学領域	健康・医療ビッグデータ概論	1前	1			○			1					兼5	オムニバス 共同（一部）
	健康・医療ビッグデータ特論	2前		1			○			1	1				オムニバス 共同（一部） ※講義
	健康政策・医療経済学概論	1前	1			○			1					兼1	オムニバス
	健康政策・医療経済学特論	2前		1		○			1					兼1	オムニバス
	社会健康医学倫理概論	1前	1			○			1		1			兼1	オムニバス 共同（一部）
	社会健康医学倫理特論	2前		1			○		1		1			兼1	オムニバス 共同（一部）
	小計（6科目）	—	3	3	0	—			2	1	2	0	0	兼7	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
ゲノム医学科目	医科遺伝学概論	1前	1			○			3					兼1	オムニバス
	医科遺伝学特論	1後		1		○			3					兼1	オムニバス
	遺伝カウンセリング	1後		1		○			1						
	遺伝カウンセリング実習	2前		1				○	1						
	ゲノム医学（疾患と遺伝子）	2前		1		○			2						オムニバス
	小計（5科目）	—	1	4	0	—	—	—	4	0	0	0	0	兼1	—
発展科目	フィールド実習	2前		1				○	2	1					オムニバス
	死生学	2前		1		○			1						
	社会健康医学における質的研究法	1後		1		○			1	1					オムニバス 共同（一部） ※演習
	社会健康医学における混合研究法	2前		1		○					1				※演習
	精神保健学概論・心理社会的支援技術論	2前		1		○				1					※演習
	医療・ケア組織論	2前		1		○				1	1				オムニバス
	高齢者ケア特論	2前		1		○				1				兼1	オムニバス
	高齢者運動・リハビリテーション論	2前		1		○				1					
	聴覚コミュニケーション学概論	1後			1	○			1					兼1	オムニバス
	聴覚コミュニケーション学特論	1後			1	○			1					兼1	オムニバス
	小児聴覚評価法	2前			1	○			1					兼1	オムニバス ※演習
	脳の発達と聴覚	2前			1	○			1		1				オムニバス
	小児難聴マネジメント	2前			1	○			1					兼1	オムニバス
	老年オーディオロジー	2前			1	○								兼1	※演習
小計（14科目）	—	0	8	6	—	—	—	4	3	3	0	0	兼3	—	
特別研究	修士論文	1後～2		8			○		10	6	3				
	課題研究	1後～2		4			○		10	6	3				
	小計（2科目）	—	0	12	0	—	—	—	10	6	3	0	0	兼0	—
合計（50科目）		—	17	43	6	—	—	—	11	6	4	0	0	兼16	—
学位又は称号	修士（社会健康医学）	学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く）										
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
①以下のとおり42単位以上を修得すること。 ・修士論文選択者：必修科目17単位、特別研究（修士論文）8単位、 その他選択科目から17単位以上 ・課題研究選択者：必修科目17単位、特別研究（課題研究）4単位、 その他選択科目から21単位以上 ②原則として2年以上在学し、所定の単位数を修得するとともに、必要な研究指導を受け、修士論文もしくは課題研究の審査に合格すること。						1学年の学期区分				2期					
						1学期の授業期間				15週					
						1時限の授業時間				90分					

授 業 科 目 の 概 要			
(社会健康医学研究科 社会健康医学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	社会健康医学特講	<p>社会健康医学の最先端で研究を牽引している研究者や専門家を招き、研究の内容や成果、社会実装に対する取り組みなどについて実践的に学ぶ。国内だけでなく国際的に活躍している研究者を招くことで、世界に広く目を向け、諸外国に現存する健康課題についても見渡せる幅広い視野を養う。社会健康医学は極めて幅広い領域に跨がる学問であり、かつ医学・保健学などの近接領域に限定されない学際的な学識も必要とされることから、様々な研究領域の研究者を招く。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (1 田原康玄・2 高木明・3 菅原照・4 白井健・5 澤井英明・6 小島原典子・7 栗山長門・8 森潔・9 木下和生・10 竹内正人・11 高山智子・12 山本精一郎・13 古川茂人・14 山崎浩司・15 堀内(荒木)泰江・① 天笠崇・② 森寛子・③ 佐藤康仁・④ 溝田友里・⑤ 田中仁啓・⑥ 中谷英仁・⑦ 藤本修平・⑧ 佐々木八十子・⑨ 八田太一・⑩ 佐藤洋子/1回) (全8回一部共同)</p> <p>担当教員は、いずれかの回を輪番制で担当し、本人担当回のテーマに適した外部講師を選定・招へいするとともに、授業ではファシリテーターとして討論を先導し、また意見集約を図る。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	博士課程セミナー1	<p>博士課程セミナーは全学年合同で開催し、論文抄読、研究成果の経過報告と討議、特別講演などを行う。 博士課程セミナー1を履修する1年次は、主に上級生の発表や、教員、外部講師による講評を聞くことで研究の実施に関して基礎的な知識を身につけるとともに、質疑や討論に加わることで研究を客観的に吟味する力を身につける。</p>	共同
	博士課程セミナー2	<p>博士課程セミナーは全学年合同で開催し、論文抄読、研究成果の経過報告と討議、特別講演などを行う。 博士課程セミナー2を履修する2年次からは、論文抄読を積極的に行うことで幅広い知識を身につけるとともに、自身の研究成果の経過報告を行い、様々な分野の教員や外部講師から講評を受けることで、研究の方向性や社会実装に関する知見を深める。また、セミナーでの発表を通じて、プレゼンテーションや質疑応答など研究者に必要とされる素養を養う。 博士課程セミナー2では、自らセミナーの運営や外部講師の招聘を担うことで、研究者として必要なマネジメント能力も養う。</p>	共同
特別演習科目	博士課程セミナー3	<p>博士課程セミナーは全学年合同で開催し、論文抄読、研究成果の経過報告と討議、特別講演などを行う。 博士課程セミナー3を履修する3年次は、2年次と同様に論文抄読を積極的に行うことで幅広い知識を身につけるとともに、自身の研究成果の経過報告を行い、様々な分野の教員や外部講師から講評を受けることで、研究の方向性や社会実装に関する知見を深める。また、セミナーでの発表を通じて、プレゼンテーションや質疑応答など研究者に必要とされる素養を養う。ただし、2年次よりも高いレベルの論文を選択し、また複数の論文を系統的にレビューするなど、一段高いレベルで抄読や討議を行う。 博士課程セミナー3では、自ら論文抄読や研究成果の経過報告を行うだけでなく、低学年生の研究支援も担うことで、研究者としてのリーダーシップを養う。 2年次から継続してセミナーの運営や外部講師の招聘を担い、研究者として必要なマネジメント能力をさらに高める。</p>	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 研究 科目	社会健康医学研究	<p>博士論文の作成に向けて、指導教員による指導の下、社会健康医学における具体的な課題を設定し、当該領域の学術的発展に寄与するとともに実践的な課題解決に向けた方策の提案にも貢献する研究を遂行する。また、研究成果の社会実装を見据えた研究も積極的に行う。社会健康医学研究の実施に必要な倫理承認を得るプロセスを経験することで、研究者としての倫理観を実践的に養う。</p> <p>(1 田原 康玄) 生活習慣病・循環器疾患・フレイル・認知症のリスク因子の解明と予防・介入方法に関するゲノム・疫学研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(2 高木 明) 新生児聴覚スクリーニングにより発見された難聴児の早期の人工内耳手術から引き続き適切な介入による音声言語発達の変容に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(3 菅原 照) 慢性腎臓病 (CKD) などの生活習慣病の早期発見、早期診断、早期治療介入の推進が日本人の健康問題の予防と健康寿命の延伸に関連することについての研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(4 白井 健) 精密医療実現のためのゲノム医療の推進および遺伝カウンセリングを含む遺伝診療の果たす役割に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(5 澤井 英明) 難病対策における遺伝性骨系統疾患の診断と疾患概念に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(6 小島原 典子) ワクチンによる呼吸器感染症の予防効果、産業保健介入が働きがいに与える影響、電磁界など物理因子の健康影響などに関するシステマティックレビューや疫学研究を指導し、論文作成を支援する。</p> <p>(7 栗山 長門) 長寿・認知症・がんを中心とした予防医学に関する研究、社会における健康リスクと関連要因の研究、コホート調査に関する研究課題を中心に、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(8 森 潔) 高額な医療費・介護費を必要とする腎疾患及び関連する生活習慣病・心血管疾患・癌などについて、危険因子の同定と積極的健康増進を目標とした研究課題を設定し、研究デザインおよび論文作成のプロセスを指導する。</p> <p>(9 木下 和生) 抗体遺伝子やがん関連遺伝子の変化を惹起する酵素AIDの遺伝子多型と、アレルギー免疫疾患および悪性腫瘍の発症頻度との関連を調査する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(10 竹内 正人) 健康保険組合保有データベースやDPCデータベースをはじめとする大規模医療データベースを用いた臨床疫学・薬剤疫学に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(11 高山 智子) がん患者や生活者と医療者とのコミュニケーションに関する研究、パブリックヘルスコミュニケーションの質の改善に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(12 山本 精一郎) がんを中心とした様々な疾患領域の治療、予防のための新しい医療技術 (医薬品を含む) 開発に資する臨床試験の計画、実施、解析について指導する。がんを含む生活習慣病予防や二次予防としての健診・検診分野における行動変容を促す方法の開発・評価・普及について指導する。</p> <p>(13 古川 茂人) 難聴の特性・リスク評価への展開を想定した、「聞こえ」の測定やメカニズム解明に関する心理物理学・神経生理学・認知科学研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(14 山崎 浩司) 死別体験者のグリーフに対する健康増進的支援、臨床死生学、インフォーマルケアに関する研究課題について、主に質的研究を用いた論文作成の研究プロセスを指導する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究科目	社会健康医学研究	<p>(15 堀内 (荒木) 泰江) 臨床ゲノム解析による遺伝子型と表現型の関連研究成果をふまえて、ゲノム医療の推進、遺伝カウンセリングの質向上に関わる研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(① 天笠 崇) 労働ストレス要因と精神疾患、職場のメンタルヘルス対策、社会生活技能訓練を初めとした心理社会的支援による精神健康の改善に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(② 森 寛子) 在宅介護者のQOL、質的研究法、量的研究法による少数集団の体験・価値観の探索に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(③ 佐藤 康仁) 生活環境における物理的因子、化学的因子、生物学的因子、気象因子、地理的因子等と健康に関する統計解析を用いた疫学研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(④ 溝田 友里) 行動科学やナッジ、ソーシャルマーケティング等を活用した、健康に関する行動変容(身体活動、食事、禁煙、がん検診受診、特定健診受診、検査受検等)を促すための研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(⑤ 田中 仁啓) 循環器疫学的アプローチを使用し、疾患リスク・関連因子の解明を目指す研究課題を中心に、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(⑥ 中谷 英仁) 医薬に関する介入、観察研究の統計学的手法及び解析、疾患の発症・悪化及び死亡に関する予測因子探索及び予測モデル構築に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(⑦ 藤本 修平) リハビリテーション領域の介入研究・大規模データ分析、リハ職種の診療ガイドライン活用・Evidence-based practiceに関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(⑧ 佐々木八十子) 医療や介護等の質の向上のための持続的かつ効果的なコミュニケーション・組織の在り方に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(⑨ 八田 太一) 混合研究法を用いたインフォームド・コンセントにおける医療者・患者関係の分析をはじめ、患者の自発性や意思決定場面にかかわる研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(⑩ 佐藤 洋子) 観察研究における統計学的手法及び解析、希少難治性疾患におけるプロファイル解析及び診断/予後モデルの構築・評価に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p>	

